

# 広葉樹資源育成を目指した強度除伐の試行について

道央森林整備事業協議会  
石狩森林管理署

工藤 穂  
久慈 正志

## 取組の背景・目的

### ○背景

- ・丸太原木の供給  
天然林から人工林に移行  
人工林の間伐が主体
- ・広葉樹育成技術  
植栽した広葉樹の育成技術が未確立  
地がき地や山火事跡地に広葉樹が更新
- ・木材利用  
加工技術の進歩  
広葉樹利用の地場産業での需要

### ○現状

- ・広葉樹原木供給の減少
- ・造林事業量の減少
- ・広葉樹資源の育成に懸念
- ・地がき等更新地の未活用
- ・中径木の利用も可能
- ・広葉樹原木の少量多用途な利用

### ○目的

広葉樹資源の育成を推進  
造林事業の新たな創出

○目的の実現に向けた取組  
ダケカンバ地がき更新地への強度な除伐の試行



2002年9月地がき：ダケカンバ更新

## 取組の概要

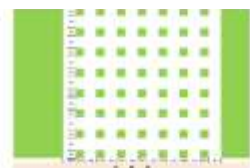
### ○強度除伐設計の基本方針

- ・機械による作業が可能
- ・強度除伐後の次期伐採は主伐又は利用間伐
- ・保残木の選木が容易

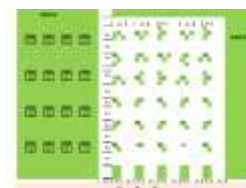
### ○強度除伐の実行方法

- ・格子状に3m幅で除伐、保残する区画は2m四方
- ・保残する1区画当たり保残本数を決めそれ以外除伐
- ・保残本数は、太いものから2本と3本を残す区域を設定

格子状除伐イメージ図



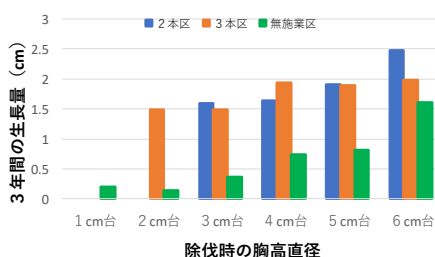
強度除伐後イメージ図



## 強度除伐3年後の生育状況

- ・保残木71本のうち倒木1本発生（風倒ではなく雪害と思われる）
- ・除伐後の萌芽の発生は無し
- ・保残木に不定芽の発生は無し
- ・保残木の肥大生長が促進

胸高直径の径級別平均生長量



強度除伐後の生育状況

## 今後の展開

3年間の経過の中で、この1事例をもって強度除伐を推奨することは危険性を含む

- ・調査を継続し想定外の事象を解明
- ・他の箇所・他の樹種での事例を収集・創出
- ・調査データの公表・共有

事例を積み重ね地がき更新地の育成技術が確立することに期待



ドローンからの強度除伐区域の上空写真